

宮崎神宮の歴史

伝説によると、宮崎神宮は国の創始者である神武天皇の孫によって、この国の創設者である神武天皇、および自身の両親を祀るために創建されました。とはいえ、この聖域の初期の歴史はあまり知られておらず、現在の神社に確実に結びつけられる宗教上の場所の最初の記録は、鎌倉時代（1185～1333）のものであります。宮崎神宮が有名になったのは、日本でほぼ7世紀におよぶ武士による支配が終わった、1868年の明治維新と同時期でした。明治天皇の新政府（1852～1912）は、天皇家の起源に触れる古代神話や伝説に関連した場所での参拝や、その維持管理を奨励しました。1907年、神社の境内は大幅に拡張され、その構造は古代神社建築に着想を得たスタイルに再建されました。

それ以来、建物と構成はほとんど変化していませんが、1940年に境内がさらに拡張されました。参拝客は、神社の主要な参道の終わりにある屋根のついた拝殿で神々に祈ります。塀の反対側、拝殿の向こうには、捧げものをする場所（幣殿）があり、その後ろに主要な聖域（本殿）があります。25ヘクタールの境内には、他のいくつかの神社、庭園、宮崎県総合博物館もあります。